

第1回 BAYANIHAN～みんなで地域をつくっていこう～ 運営委員会(報告)

令和3年7月20日(火)15:00~17:00

オンライン会議システム zoom

(南部協働センター3階 料理室)

1. 開会(15:00)

2. 委員会の設置について、委員長・副委員長の選出(15:05)

- ・委員会にて配布した資料「委員一覧」「規約」参照

- ・鈴木三男委員より「事務局案で」とご提案いただいた。事務局から委員長に清ルミ氏、副委員長に高貝亮氏にお願いした。

→異議なし(全員)。よって委員長に清ルミ氏、副委員長に高貝亮氏が決定した。

3. 各委員よりごあいさつ(15:15)

- ・野口町の法律事務所で弁護士をしている。フィリピンナガイサの活動は当事者が主体となって様々に工夫された取り組みがなされていて他の団体からも参考にされるようになっている。私も引き続き学んで行きたい。(高貝亮)

- ・フィリピンナガイサは本市の多文化共生事業の推進にあたり様々な形でご協力をいただいている。また、コミュニティ支援と日本語学習支援を効果的に進め内外から高い評価をされている。今後の活動の充実、さらなる発展に期待している。(鈴木三男)

- ・浜北商工会は、中小規模の事業所 2,200 くらいの会員数がある。在日フィリピンの方とどのようにビジネスでつながれるかと考えている。(村松辰芳)

- ・フィリピンナガイサの活動に接して、4 年目になる。この団体は、私がまいた種に新しい花を付けるという企画力があり、素晴らしい活動をしていると思う。(吉開)

- ・浜松に住んでいるフィリピン人の少しでも役に立ちたいと考えている(鈴木エバ)

- ・7 年ぶりに同じ部署に戻ってきた。そのため、本事業の運営委員を務めた経験もある。(澤田)

- ・フィリピンナガイサと県内の定時制高校の非常勤講師をしている。フィリピン人の特性を把握し、事業に活かしていきたい。委員の皆様から貴重なご意見を頂戴したい。(松本)

- ・平成 20 年から本事業を展開しているが、委員の皆様からご助言をいただきながら研鑽してきた。今後もいい報告をしていきたい。(半場)

- ・事業立ち上げ当時から関わっている。フィリピンナガイサが大きくなるのを楽しみにしている。(清)

- ・本事業の計画を見たが、いろいろな角度から課題点を捉えていると感じた。すべてを網羅することは大変だと思うが、「フィリピン人の困りごとが埋没されないように」という目標を立てられたとのことで、昨年と今年度の違いを目に見える形にして乗り越えてほしい。この団体は、十分に乗り

越える力を付けてきたと思っている。一つ一つ丁寧に分析して活動につなげてほしい。ところで、来年4月から成人年齢が引き下げられることから、呼び寄せが一層困難になる可能性がある。今後、日本に暮らすのであれば進路指導の中で、「日本への招致は早めに」というアナウンスをしたほうがいい。(村松正利)

・実際に「来日したい」という問い合わせが増えており、申請書類の相談も増えている。呼び寄せのタイミングとして、中学校卒業前後の子どもが目立つ。もしかしたら成人年齢引き下げの影響がすでに始まっているのか。また、「呼ぶなら一斉に呼ぼう」ということで、兄弟やいとこ関係など、若い親族をまとめて呼ぶ傾向がみられる。クラスへの参加は、一度に複数名ずつ増えるということが予想される。(松本)

4. 議題(15:35)

今年度の事業計画

・学校現場における取り出し授業に通じるところがあると思いながら、報告を聞いていた。私たちは、「児童が取り出しで学んだことを在籍学級で活かし、自分らしさを発揮できる力を付ける」ということに主眼を置いてやっている。その点が、このクラスの「生活に活かす」という報告に近いと感じた。(澤田)

・ポートフォリオの話が面白いと思った。学習者が授業で勉強したことを形として残していけるので、まとめが蓄積される点が学習者本人の実感につながって良いと感じた。ポートフォリオの役目は評価もあると思うが、達成度を測るようなテストをしているか。テストをしているようであれば、このポートフォリオは活かされているか。(高貝)

・このポートフォリオはいくつかの側面を持っている。一つは生徒自身の学習意欲に結びつくようなもの。学んだことを視覚化することで、「できた」という喜びを持って学習が持続することを意図している。また、事務局にも写真として控えを撮らせてもらうことで、学習状況の調査も兼ねている。「テスト」というように能力測定という伝わり方をすると、教室への参加に負担を感じる方も多いのでそれはやっていない。出席率安定を最重視している。(半場)

・バヤニハン日本語教室に登壇し、在留資格の話を中心にした。今回は出入国在留管理庁と文化庁が発行している「生活・仕事ガイドブック やさしい日本語版」に書かれている内容に沿って、私の業務から具体的な事例を出して、よりイメージしやすいよう解説した。民法改正の成人年齢引き下げについても話をした。(村松正利)

・フィリピンナガイサの企画力が素晴らしい。コロナ収束後も人材育成をオンラインでやることは、この団体のグラウンドを上げる意味でも続けた方が良い。(吉開)

・現在、日本語教育関連の法律に基づいて、日本語教育の質の担保や教師の資格などの制度設計がなされているところである。浜松市は先進都市の委員として会議に参加し、意見を述べている。地域の日本語教室は、長年、コミュニティをどう支えるかということやってきた。その意味で、日本語教育の質を上げれば良いというだけの問題ではないと考えている。時代や国策の流れの中でも、フィリピンナガイサのようなコミュニティが担保されるよう、我々も国に意見し、支援していきたい。(鈴木三男)

・率直に申し上げて、日本語教室と商工会の結びつきが見出しづらいと思っている。在日フィリピン

人は女性が多いと認識している。こうした女性の才能を、地域の中で生かしてもらうことは出来ないかいつも考えている。コロナ禍においては柔らかな感性、大掛かりではなくとも、ちょっとした感性の登場が待たれている。先日、コワーキングスペース「イトリエ」で、浜北区内にある特別支援学級の展示会をしたが、マスコミに取り上げられ、とても好評だった。我々にとっても今までと違った新しい感覚を得たばかりである。周辺にはプレ葉ウォークやサンストリート浜北といった大型店舗があり、そうした関係者からも「先日の展示会のような機会が欲しい」というお声を聞いている。日本語教室で育てた方で、良い方がいたら、ぜひ我々にも結び付けてほしい。そうした人材を掘り起こしていただき、いっしょにやっていける仲間になればよいと思う。(村松辰芳)

- ・浜北商工会とのコラボレーションを、今年度中に、本事業の中に組み込むことはできないか(清)
- ・日本語教室では学びをポスター制作にする機会が多く、成果物が結構ある。そうしたものを掲示する機会があれば皆も喜ぶと思う。大型ショッピングセンターなどは、普段からフィリピンの方々がよく行くところであり、生活圏でもある。自身やご家族の作成したものが展示されていれば励みになる上、展示を介して日本人との交流の機会にも恵まれることが想定される。今年度中に計画を検討する。大人も良いけど、青年クラスは最適だと考える。(半場)

- ・言語学習と成果物を結び付けて、そのような活動ができる。ぜひ、やってほしい。(清)
- ・事務局からご報告した中に、バヤニハークラスの写真があった。コロナ禍なのに、こんなにたくさんの生徒たちが参加している。ハロハロクラスの子どもの送迎のために来る保護者たちも、日本語を一生懸命勉強していて、良いことだと思う。自分の子どもの勉強のために親も来ているが、子どもに勉強させるだけでなく、自分も親として日本の生活で困らないよう努力しなければいけないと思う。浜北区にもフィリピン人は多いので、中区だけでなくそちらにもこうした場所が必要である。(鈴木エバ)

- ・本事業の報告を聞いて、本当に盛沢山で素晴らしいと感じた。これを全部こなしていくのは目が回るほど忙しいのではないか。がんばってほしい。教材作成については委員の皆で回覧し、意見を出し合えるとよい。本委員会の委員はいろいろな立場から就いていただいているので、様々な視点で見てもらえると思う。早めに共有できるよう、事務局には準備をお願いしたい。(清)

6. 事務局より連絡(16:55)

次回委員会について

- ・メールにて調整予定

7. 閉会(17:00)